

食品安全関係情報( 1月31日 ~2月13日 収集分※)について

「食品安全関係情報」として食品安全委員会が収集したハザード毎の地域別情報件数の概要

(集計数は、今回/前回)

1月31日 ~2月13日 収集件数 (合計112/127件) (前回1月10日 ~1月30日)		国際機関	北米		欧州		大洋州	アジア		中南米等	その他
		WHO・FAO等 (9/6件)	米国 (6/9件)	カナダ (5/4件)	EU、EFSA (26/25件)	各国 (19/27件)	FSANZ等 (2/2件)	中国 (7/20件)	各国 (5/11件)	各国 (1/0件)	報道、論文等も含む (32/23件)
化学物質 (27/39件)	化学物質・汚染物質 (1件)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	食品添加物 (2)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	農薬 (13)	0	4	0	7	0	0	0	0	0	2
	動物用医薬品 (5)	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1
	器具・容器包装 (1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	その他 (5)	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1
	計 (27件)	0	5	0	13	3	1	1	0	0	4
微生物・プリオン・自然毒 (46/53件)	細菌 (10件)	0	1	1	0	3	0	2	0	0	3
	ウイルス (24)	5	0	1	3	7	0	1	0	0	7
	原虫・寄生虫 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	プリオン (5)	1	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	植物性自然毒 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カビ毒(マイコトキシン) (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	動物性自然毒 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他 (5)	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2
計 (46件)	8	1	3	3	10	0	4	1	1	15	
新食品等 (13/11件)	新食品 (3件)	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	GMO (7)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
	健康食品 (1)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	アレルギー (1)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	クローン (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線照射 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナノテクノロジー (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 (13件)	0	0	1	4	0	0	0	1	0	7	
肥料・飼料等 (0/7件)	肥料 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	飼料 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (26/18件)	表示 (3件)	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
	放射性物質 (2)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	栄養 (2)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	その他 (17)	1	0	0	5	4	1	2	1	0	3
	論文情報 (2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	計 (26件)	1	0	1	6	6	1	2	3	0	6
海外の食中毒 (0/0件)	細菌 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※収集期間については、主たる期間をいう。

## 食品安全関係情報(1月31日~2月13日収集分 112件)のうち、主なものの紹介

(詳細及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください)

### 【化学物質】

- ・ 欧州食品安全機関(EFSA)、毒性学的懸念の閾値に関する EFSA/世界保健機関(WHO)の専門家研究集会の結論及び勧告案について意見公募
- ・ ベルギー連邦フードチェーン安全庁(AFSCA)、硝酸塩、鉛、カドミウム、水銀、メチル水銀、ヒ素又は無機ヒ素に汚染された食品のリコールのための科学的アプローチに関する報告書を発表

### 【微生物・プリオン・自然毒】

- ・ 世界保健機関(WHO)
  - ・ 鳥インフルエンザ A(H5N1)ウイルスによる感染情報を更新(1月26日付)
  - ・ 中国の鳥インフルエンザ A(H5N6)ウイルス感染情報を更新(2月12日付)
- ・ 国際獣疫事務局(OIE)、カナダでの BSE 牛発生に関する情報を公表
- ・ ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、基質特異性拡張型  $\beta$ -ラクタマーゼ(ESBL)/ampC  $\beta$ -ラクタマーゼ産生薬剤耐性菌に関する FAQ を公表
- ・ 欧州疾病予防管理センター(ECDC)、中国における鳥インフルエンザ A(H7N9)感染者の疫学情報を更新
- ・ Eurosurveillance : 「2014年11月にフランスで発生した *Clostridium baratii* F 型毒素によるボツリヌス症の2症例」

### 【新食品等】

- ・ 欧州食品安全機関(EFSA)、遺伝子組換え(GM)植物の販売後監視計画に関する外部委託研究報告書を公表
- ・ カナダ保健省(Health Canada)、食物アレルギーに関する意識向上のための注意喚起

### 【その他】

- ・ 世界保健機関(WHO)、ファクトシート「健康な食事(Healthy diet)」を更新
- ・ 欧州食品安全機関(EFSA)
  - ・ 「消化管、免疫系、及び病原性微生物に対する防御に関する健康強調表示の科学的根拠に関するガイダンス」案に対する意見募集を開始
  - ・ 新興リスクの分野における利害関係者の活動に関する2014年の報告書を公表
  - ・ 2015~2017年の業務計画及び優先事項を公表
  - ・ リスクコミュニケーションのガイドラインを更新
- ・ 台湾衛生福利部、「食品中の放射性降下物又は放射能汚染基準」について新たな評価を行う旨公表

## 食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

### ○化学物質—化学物質・汚染物質

#### 欧州食品安全機関(EFSA)、「業務計画文書(Programming document)2015～2017 年」とそれを紹介するプレスリリースを公表

公表日: 2015 年 2 月 4 日 情報源: 欧州食品安全機関(EFSA)

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/150204.htm>

欧州食品安全機関(EFSA)は 2 月 4 日、2015 年度以降の優先事項を示す「業務計画文書(Programming document)2015～2017 年」とそれを紹介するプレスリリースを行った。

食品安全にかかわる問題はこれまで以上に複雑になってきており、さらにはリスク管理者や欧州連合 5 億人の消費者に役立つ素早い対応も求められている。

新食品領域、動物と公衆衛生とが関わり合う領域といったところで、今までにないリスク評価の対象が生まれてきている。また、リスク評価における諸問題がその複雑さを増してきているということは、従来の科学的分類が常に適正ではないということを意味している。そのことは、たとえば、環境リスク評価、販売後モニタリング、リスク-便益評価といった領域が出現していることからわかる。

加えて、EFSA は国家の枠組みを超える可能性がある食品安全関連の緊急事態に迅速な対応をしなければならない立場に置かれている。EFSA はこの立場において、食品由来のアウトブレイクに対処するリスク管理者を支援するためにデータ解析と科学的アドバイスの提供、各種食品の追跡支援に大きな役割を果たしている。

また、世界の状況は非常にめまぐるしく動いており、社会は公開性と透明性の向上を求めている。開かれた政府、技術革新、ソーシャルメディアは、規制当局に対し、リスク評価コミュニティ、リスク管理者、利害関係者さらには市民社会と協働すること、そしてそれらの基盤および支援業務を再考することを求めている。

EFSA の予算は増えておらず、資金力も現状維持もしくは低下する状況下で複雑さや社会変化に立ち向かうため、少ない資源でより多くを成し遂げることが求められる。

EFSA は、2015 年に計画している科学、コミュニケーション及び組織運営に係る広範囲にわたる活動を開始した。

#### 1. 2015 年の主な行事

(1)約 400 件の科学的成果物の採択、(2)EFSA の 8 つの科学パネル及び科学委員会のメンバー改選、(3)ミラノ(イタリア)における第 2 回 EFSA 科学会議の開催(ミラノ国際博覧会(EXPO2015)への欧州連合(EU)の貢献の一環)。

#### 2. 2015～2017 年の主な科学的業務

(1)アクリルアミド及びカフェインを含む意見書、(2)EU の植物検疫(plant pest annexes)の対象となる病害虫のリストの見直し、(3)各種酵素及びイソフラボン類の評価、(4)ミツバチにストレスを与える原因のリスク評価に関する学際的プロジェクトの立ち上げ、など。

人獣共通感染症、食中毒、薬剤耐性及び残留農薬及び分子タイピングに関する年次報告書を公表し、食品中の化学物質に関する新しい報告書も公表する予定である。

「業務計画文書(Programming document) 2015～2017」(80 ページ)は以下の URL から入手可能。

<http://www.efsa.europa.eu/en/corporate/doc/amp1517.pdf>

#### ○関連情報 (海外)

・ EFSA 「2014～2016 年の多年次業務計画及び 2014 年次業務計画書」

<http://www.efsa.europa.eu/en/corporate/doc/mwp1416workplan14.pdf>

・ 欧州連合(EU)の研究・技術開発枠組み計画「Horizon 2020」における EFSA の優先研究課題に関する技術的報告書

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/727e.pdf>

#### ○関連情報 (国内)

・ 平成 27 年度食品安全委員会運営計画

<http://www.fsc.go.jp/fscis/attachedFile/download?retrievalId=kai20150210sfc&fileId=130>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fscis/>)をご覧ください